

## 総会及び第2回学術総会 実施報告

学術総会長	石見佳子幹事（独立行政法人 国立健康・栄養研究所）
日 時	平成27年2月28日(土)
会 場	(独) 国立健康・栄養研究所 〒162-8636東京都新宿区戸山1-23-1
総 会	13:00～13:30 共用第一会議室
学術総会	13:40～17:00 共用第一会議室
参加者数	会員（学生会員を含む）34名、非会員20名、計54名
学術総会プログラム	
タイトル	ロコモティブシンドロームと栄養・運動
13:30-13:40	開会の挨拶、支部長 武見ゆかり 挨拶
13:40-14:30	シンポジウム1 (独)国立健康・栄養研究所健康増進研究 宮地 元彦 先生 「ロコモとメタボを予防するための身体活動・運動」
14:30-15:20	シンポジウム2 徳島大学ヘルスバイオサイエンス・生体栄養学分野 二川 健 先生 「無重力による筋萎縮のメカニズムとそれに有効な機能性食材の開発」
15:20-15:30	休憩
15:30-16:55	個別研究発表（ポスター発表） 11題
16:55-17:00	閉会の挨拶 川島由紀子幹事（第3回支部学術総会長）

### 発表者の感想

これまでの私の研究は、健康づくりのための「身体活動・運動」をテーマとしておりました。

今回はじめて、「栄養・食事」という新たな分野を加えた研究発表をさせていただき、日本栄養改善学会関東・甲信越支部会は、私にとって新たなテーマに挑戦した、言わばデビュー戦でした。多くの栄養の専門家の先生方を目の前にした発表は、とても緊張しましたが、たくさんの貴重なご意見をいただき大変勉強になりました。研究内容は、まだまだ至らない部分が多かったのですが、温かい雰囲気の中で、発表をさせていただけたことにとっても感謝しております。これから新しい研究テーマを進めていくにあたって、よいスタートを切ることができたと思っております。

身体活動や食事・栄養は、サルコペニアやロコモ、循環器疾患といった老年疾患の予防に欠かすことができないものですが、その併用効果に関する研究はほとんどされておりません。それぞれの専門家が集う学会等においても、その重要性は認識されてはいるものの、その効果に関するエビデンスはほとんどないといった状況にあると思います。「身体活動・運動」と「栄養・食事」分野との融合により、より効果的な疾病予防のためのアプローチを明らかにすべく今後も研究に励みたいと思います。

これからも若手の挑戦に温かい応援をいただきたく、ご指導よろしくお願いたします。

この度は貴重な発表の場をいただき、日本栄養改善学会関東・甲信越支部会のご関係者の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

ポスターセッションに大変活気があり、討議がしやすい環境でした。おかげさまで多くのアドバイスをいただくことができ、自分の気づけなかった問題点や落としていた点に関する理解を深めるきっかけになりました。できればいろいろなジャンルの方々に発表を聞いていただきたかったのですが、聞いていただいた方の多くが似た分野の方々でしたので、様々なジャンルの方の興味を引くポスターを作れなかったことが反省点となりました。

またポスター発表後の口頭発表では発表媒体がない状態での発表で、初めての体験でしたが、発表してみるとどんなスライドがあったらわかりやすいかなどが考えられ、とても有意義なものとなりました。

大変貴重な時間をいただき、関係者の皆様に御礼申し上げます。

第2回日本栄養改善学会関東・甲信越支部会は「ロコモティブシンドロームと栄養・運動」をテーマにした学会でした。基礎から応用、実践に至るまで幅広いバックグラウンドを有する方々が参加されていたこともあり、様々な意見をいただき大変勉強になりました。私自身、ポスター形式での発表は初めてでしたが、他の方々の研究発表を聞き、発表時のポイントの押さえ方や応答の仕方等、自分に足りない点やこれからの課題を把握できたと思います。特に、発表者の多くが若手研究者であった事は、私にとって大きな刺激となりました。学会発表を通じて得た多くのものは、今後の研究活動に生きる貴重な経験だと思っています。

最後に、学会発表の機会を与えて下さった指導教官の先生、日本栄養改善学会関東・甲信越支部会の皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

発表の際、頂いた質問は研究の参考になるだけでなく、視野を広げる勉強になりました。他の方々の研究発表についても、着眼点やそこに至るアプローチ等、様々な刺激を受けました。特に若手を中心とした発表は、質疑応答がしやすくとても勉強になりました。

ありがとうございました。

PAGE TOP ▲